

「愛あふれる園」50周年

11月18日に式典、山本愛泉保育園

地域の強い思いにより、50年前の1973年に設立した十日町市山本町の「社会福祉法人山本愛泉保育園」(大津富士夫園長、38人)。理事長は代々日本キリスト教団・十日町教会の牧師が務め、現在の久保田愛策理事長が3代目。創立50周年事業で段差解消や熱

交換型換気システム、保育室全面改装などを日本財団の8割助成を受け、総工費48823万円で整備。11月に完成予定。さらに創立50周年記念誌『虹のかけはし』の年末発刊、保護者会「花の会」は園庭砂場リニューアルをめぐり寄付を募っている。なお50周年記念式典は11月18日に行う。

50年前は第二次ベビーブームの頃。山本町内でも子どもが増え「地域に保育園を」の機運が高まり、山本町から通う園児が多かった十日町幼稚園を運営する十日町教会の松井愛美牧師(当時)が、

山本町総代の村山謙一氏(当時・山田屋商店社長)から新園設置の相談を受け、さらにその後「保育園のための用地の確保はできています」との住民総意が出され、新園の設立と運営を打診。これを松井牧師が受け、新園設立のため同町から1軒3万円の寄附を募ると相

あふれるような保育園に」と願いを込めている。キリスト教の牧師が理事長を務める同園だが、無償提供を受けた土地は稲荷神社の境内。そのため園に通うには鳥居をくぐり入ることになる全国でも珍しいもので、多様な社会の先取りを象徴する形となっている。第3代の久保田理事長は「先生の指示に従いなさいではなく、一人ひとりの個性を重んじる保育を行っている。一人の人間として園児を最大限に尊重する、今では当たり前になっている保育を行ってきた」と理念の一端を話す。

額が集まり実現に至った、地域の思いが詰まった園としてスタート。名称は町内名の「山本」、そして「泉のように愛が

11月18日の50周年記念感謝礼拝(式典)は、関口十日町市長、松井和榮初代園長、前理事長の新井純牧師ら50人余が参列予定だ。



創立50周年の山本愛泉保育園の大津園長、久保田理事長、山田主任保育士(6日)

なお園庭砂場のリニューアル寄付金は今年31日まで受付。問合せは山本愛泉保育園 ☎025・757・0133。